

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名:みまさかの若者に働く意欲と継続力を【若者自立支援事業】

2 実施団体:特定非営利活動法人 未来へ

3 協働担当課:岡山県美作県民局健康福祉部福祉振興課

4 事業概要

2014年全国の児童相談所に寄せられた虐待などの相談は、約73,000ケース。5年前と比較し約3万ケースも増加しています。津山児童相談所においても、相談件数は年間600件を超えています。

また2012年厚生労働省の調査によると6人に1人の子どもが、一般水準の半分にも満たない生活を送っているという結果でした。

これらのような事情により保護された子どもたちは、児童養護施設等で生活することになります。しかし、こどもたちのほとんどは親との関係がうまく結べていないことから「他人と信頼関係を深める」ことが難しく、対人関係でつまづくことが少なくありません。さらに過去のトラウマを抱えたまま成長していきます。そして、一定の年齢になると個々の成長度合いに関係なく、施設をでていかなければなりません。対人関係でのハンデや過去のトラウマを抱えながら、自分ひとりで生きていかなざるを得ないのです。

さらに、一般家庭でも虐待や貧困、いじめ、家族の問題など様々な生活環境から社会に出るための「生きる力」を備えることができず、ニートや引きこもりとなっている多くの若者が存在します。他人とのコミュニケーションがうまくとれず、子どもの頃からの失敗経験を積み重ねてしまった結果、社会に一步踏み出すことができなくなってしまったのです。

このような子ども、若者たちが社会に出て自立するためには、特別な支援が必要とされており、全国には国や地方自治体以外にも、このような子どもや若者の支援を行う団体はたくさんあります。

しかし、その多くは人口50万人以上の都市であり、地方では対象者のほとんどが支援を受けることができていません。地方では「人口が少ないから」などという理由で、同じ境遇の子どもや若者が受けられる支援が違うという不平等な状況がうまれているのです。

地域の大切な人的資源であり大きなマンパワーである彼らが、人口減少が進む岡山県北地域で社会的自立を目指すことは、近い将来の岡山県北地域の活性化を大きく左右すると私たちは考えます。人口が少ない地方だからこそ、若者の社会的自立を支援する施設や仕組みが必要なのです。

そこで平成27年4月に15歳から39歳までを対象とした社会的自立支援事業を立ち上げ、支援員が常駐し相談窓口を設け、面談やプログラム、就労体験などを行っています。さらに利用しやすい相談窓口を目指し、津山市中心部、真庭市、美作市、勝央町などで定期的に無料

出張相談会も実施しています。

彼らが抱える問題はそれぞれ違い、支援の内容も多岐に渡ります。私たちは個々の問題解決に向けて、法律、福祉、医療等の専門家や公共機関や企業などと連携し、地域全体でサポートできる体制を構築します。

利用者に寄り添った決め細やかなサポートを地域全体で行うことで、若者の社会的進出をサポートします。

5 実施内容

●事業の啓蒙活動

事業概要や相談内容、若者が抱える問題などを広く理解していただくために、「若者支援シンポジウム」を開催。自治体や若者支援団体の方々、利用者の保護者など約70名が参加。

※詳細は添付資料①をご覧ください。

●相談支援

来所、電話などによる相談の受付を行った。今年度は、本人や保護者からの相談以外にも保健師やスクールソーシャルワーカー、関係機関などからの相談も多く入るようになり、少しずつ活動が広がっていることを実感した。

支援プランに迷うケースについては、月に1回開催しているケース会議でプランの相談や関係機関との連携を図った。

【新規相談者数】

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	2	1	0	2	0	0	0	2	0	7

【相談・面談件数(のべ)】

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
37	24	29	20	24	20	20	28	34	33	269

【相談内容】

- ・就労ブランクが長く、不安で働くことができない。
- ・コミュニケーションが難しく他人と話すことができない。
- ・昼夜が逆転している。 など

●就労準備支援

複数回の面談を経て、個々の悩みや問題をしっかり聞き取った上で必要なプログラムを作成。個別でのプログラムだけでなく、利用者同士の交流を通じてコミュニケーション力をつける「みんな参加型」のプログラムを用意し、利用者の段階に応じて参加を促した。

【プログラム参加者数(のべ)】

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	8	8	10	8	6	8	5	14	12	88

【プログラムの内容】

目的	内容
自己理解	・封入作業 ・製本作業 ・まんだら塗り絵 ・ミサンガ作り ・レディネス検査 ・自分ポスター ・自己理解ワーク ・折り紙
コミュニケーショントレーニング	・コミュニケーションゲーム ・ボランティア活動 ・利用者交流会の開催
生活改善	・脳トレ ・3ヵ月後の姿 ・日常の見直し ・お金について
スキル習得	・エクセル基礎
就労に向けて	・職場見学、体験 ・履歴書の書き方 ・面接練習 ・ハローワーク同行 ・社会人のルール ・ロールプレイング

●就労訓練支援

就労に意欲が出始めた利用者に対して、積極的に就労訓練参加を促した。雇用型の就労訓練先をメインに準備し、賃金を得ることで大きな達成感を得ることができた。また、就労できたことで自信が持てるようになり、褒められる、声をかけられることに喜びを感じると同時に成功体験を積むことが大きな自信にも繋がった。

【就労訓練参加者数(のべ)】

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	5

【参加した就労訓練の職種】

・清掃 ・草刈り など

●就労活動支援

就労が決定した利用者に対して、電話やメール、面談などでアフターフォローを行った。職場での悩みや不安などを聞き、アドバイスを行った。

【就労後の相談や報告内容】

- ・他の人と同じようにできない。 ・仕事の覚えが悪くて先が不安。
- ・給料がもらえるようになり趣味を楽しむことができるようになった。
- ・職場で友達ができた。 ・正社員を目指したい。 など

【進路決定者数】

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	0	3	0	0	0	0	0	2	6

●児童養護施設等退所前セミナーの開催

児童養護施設等を退所し自らの力で生きるために必要なことをテーマにセミナーを開催。児童養護施設退所者に限定せず、自立支援センター未来への利用者も対象に加えた。年齢は中学生以上。

【セミナーの開催】

日時	テーマと内容	講師	参加者
2016年11月17日 (木)	テーマ:仕事について 内容:人間はひとりでは生きていけない。誰かから必要とされて成り立つこと、仕事は改善の繰り返し・・・など。	キャリアコンサルタント 湊雄貴さん	8
2016年11月24日 (木)			6
2016年11月29日 (火)			5
2017年2月26日 (日)	テーマ:身だしなみとコミュニケーションについて 内容:好感度アップのメイクや社会人の身だしなみ、冠婚葬祭のルールと社会人として必要なコミュニケーション力・・・など。	(有)アクティ 石井香里さん	15
2017年3月18日 (土)	テーマ:社会人になる前に知っておきたいこと 内容:給料明細の見方、社会保険や年金のこと、早期退職のリスク・・・など。	ファイナンシャルプランナー 木村美紀さん	2

【参加者からの感想】

(仕事について)

- ・自分が目指している職業をあきらめないと思った。
- ・自分を愛して大切にしないと他人を大切にできないということにとっても同感した。
- ・自分の考え方ひとつで見える景色が変わっていくんだとわかった。チャンスは自分でつかむ。

(身だしなみとコミュニケーション)

- ・コミュニケーションを使って相手をわかってあげたいと思った。
- ・初めてメイクをしました。自分の顔が変わるのがわかり恥ずかしかった。
- ・普段から笑顔が苦手だったので、笑顔の仕方を教わってよかった。
- ・メイクはおしゃれでするものだと思っていたけど、身だしなみや印象を変えるんだと知りました。
- ・コミュニケーション取れないことが悩みだったので、すごく参考になりました。

	
<p>若者支援シンポジウムの様子</p>	<p>プログラム(まんだら塗り絵・3か月後の姿)</p>
	
<p>職場見学</p>	<p>退所前セミナー</p>

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

平成28年6月から平成29年3月までの自立支援センター利用者は20名、うち6名の進路が決定しました。のべ利用件数は266件でした。

出張相談会を継続して実施してきたことで地域からの認知度もあがり、市町村の担当課を通じての相談も増えてきました。また市町村などが開催する関係者会議へも参加し、関係者それぞれが役割を明確にし、情報共有した上で協力しながら支援を行うことができました。

月1回開催したケース会議では、岡山県をはじめ、津山市、弁護士、社会福祉士、児童相談所、一般企業などが一同に会し、個々のケースでの支援について意見を出し合いました。それぞれの分野から専門的な意見や過去の事例や経験を伺い、支援に厚みが出ただけでなく勉強にもなりました。

児童養護施設等退所前セミナーを合計5回開催し、のべ36名が参加しました。昨年の参加者からとても評判の良かったキャリアカウンセラーのセミナーは、多くの子どもたちに参加してもらうため、各養護施設に出向いて開催しました。園の関係者からも各園で開催してもらえると、子どもたちも参加しやすいと喜んでいただきました。さらに園から「社会人の身だしなみとして、ネクタイの結び方やナチュラルメイクを教えてほしい」と要望があり、早速取り入れセミナー開催したところ、子どもたちからとても前向きな感想をもらうことができました。最後のセミナーでは保険や年金、早期退職のリスクなど、自立する上で必要な知識を伝えました。

今年度も、この事業を通じて6名が進路決定することができました。また、就労は決まっていなくても、自信がなく就労が不安だった若者たちが、前を向いて一歩踏み出そうとしています。事業開始当初は、地域の関係者との繋がりも少なく、それぞれがそれぞれにできる支援を行って

いましたが、少しずつ着実に横のつながりも強化されていき、チームでサポートを行える体制作り、横の連携が取れるようになってきたことは、本当に大きな成果だと感じています。

(2) 今後の課題

若者の社会的自立支援を始めて約2年。少しずつこの事業の認知度もあがってきましたが、まだ必要な方に届いていません。引き続きこの事業の啓蒙活動が必要だと強く感じています。

また、相談内容の中には想定していなかったような深い問題を抱えている若者が多く存在しています。彼らが抱える問題は多岐に渡り、様々な分野の知恵が必要だと痛感しています。ケース会議や利用者の関係者会議などを通じて、知恵を出し合う体制の基盤ができ、私たちの知識も深めることができました。しかし、利用者に寄り添った支援を行うためには、まだまだ勉強不足であることは否めません。今後も深い知識が持てるよう勉強し、さらなる連携の輪が広がるよう働きかけることが必要だと感じています。

このように、社会的自立をサポートするためには大きなマンパワーが必要であり、事業を継続するためには財政基盤を整えることが最大の課題だと思います。

7 県民局と協働した効果及び課題

今年度は、美作県民局の協力を得て若者支援シンポジウムを開催することができました。このシンポジウムを開催したことで、この事業について理解を深めてくださった自治体などの方々からさらなる協力をいただくことができました。

また、県民局からの働きかけもあり、各市町村には相談会の場所を確保いただき、利用させていただいています。

しかし、同じ美作県民局管内でも市町村によって取り組みに温度差があり、利用状況にも大きな差があります。現在、利用がない市町村の担当部署にもしっかりと働きかけしていくことが課題だと感じています。

添付資料①

平成28年度美作国創生公募提案事業



若者支援シンポジウム

みまさかの若者に働く意欲と継続力を
～「若者自立支援」を考える～

日時 2016年8月26日(金) 14:00～15:45

会場 津山保健センターホール
津山市椿高下114

「ニート引きこもりの若者とその家族の支援」

原田 緑氏 (元若者サポートステーション統括コーディネーター)

「見通しのつかない生活支援」

秋里 勇治氏 (相談支援事業所きぼう 相談支援専門員)

「虐待を受けた子どもの自立支援」

西崎 宏美氏 (子どもシェルターモモ 専務理事)

【駐車場のご案内】

※津山保健センター駐車場が満車の場合、パーキングラビ (津山市山下/リユースプラザ津山くるくる隣) をご利用ください。会場受付にて駐車券を発行いたします。

※できるだけ乗り合わせの上、ご来場ください。



パネルディスカッション 「テーマ：自立困難な若者を支える地域の関わり方」

パネリスト

秋里 勇治氏 (相談支援事業所きぼう 相談支援専門員)

浅田 浩司氏 (岡山県津山児童相談所 所長)

西崎 宏美氏 (子どもシェルターモモ 専務理事)

原田 緑氏 (元サポステ統括コーディネーター)

【申込先】

FAX

0868-42-7177

mail

info@npomirai.org

主催：NPO 法人未来へ 共催：岡山県美作県民局

2014年全国の児童相談所に寄せられた虐待などの相談は約73,000ケース。5年前と比較し約3万ケースも増加しています。2012年厚生労働省の調査によると6人に1人の子どもが、一般水準の半分にも満たない生活を送っているという結果でした。

このように、虐待や貧困、いじめ、家族の問題など様々な生活環境から、社会に出るための「生きる力」を備えることができず、ニートや引きこもりとなっている多くの若者が存在します。

また、児童相談所などにより保護され社会的養護の元で暮らす子どもたちのほとんどは、過去にトラウマを抱えています。そして親との関係がうまく結べていないことから「他人と信頼関係を深める」ことが難しく、対人関係でつまづくことが少なくありません。しかし一定の年齢になると、個々の成長度合いに関係なく施設を出て行き、対人関係でのハンデや過去のトラウマを抱えながら、自分ひとりで生きていかざるを得ないのです。

このような子ども、若者たちが社会に出て自立するためには、特別な支援が必要とされており、全国には国や地方自治体以外にも支援を行う団体は、たくさんあります。

しかし、その多くは人口50万人以上の都市であり、地方では対象者のほとんどが支援を受けることができていません。「人口が少ないから」などという理由で、同じ境遇の子どもや若者が受けられる支援が違うという不平等な状況が生まれているのです。

彼らも地域の大切な人的資源であり、大きなマンパワーです。彼らが人口減少が進む岡山県北地域で社会的自立を目指すことは、近い将来の地域活性化を大きく左右すると私たちは考えます。人口が少ない地方だからこそ、若者の社会的自立を支援する施設や仕組みが必要とされているのです。

この度のシンポジウムでは、実際に若者支援に携わっている方々から現状を報告いただきながら、これからの具体的な支援について考えていきたいと思えます。

申込期限

シンポジウム参加申込書

8月19日
(金)

氏名		所属	
住所	〒		
TEL		mail	

【申込先】

FAX

0868-42-7177

mail

info@npomirai.org



NPO法人

未来へ

お問合せ先：特定非営利活動法人未来へ
〒709-3924 岡山県津山市加茂町小淵2-9-1

TEL：0868-42-7008 FAX：868-42-7177 Email：info@npomirai.org